

障害者と共に

全国セルフ協会長に就任して

誰もがその人らしくいきいきと働き(活動し)、暮らしていける社会をめざして



理事長
叶 義文

まりいたきました。ご参加いただき
た皆さまありがとうございました。

さて、この間コロナ感染症の影響
で三年間中止していた「恵愛まつり」
については、今年の一〇月二二日(土)
に、四〇周年を記念して開催すること
としています。「共に生きる出会い
を求めて」というテーマのもと、誰も
が楽しめる出会いの場になれば幸い
です。是非お出かけください。

感謝いたします。

創立四〇年記念事業については、
次頁以降で詳しく説明しますが、①
記念式典と祝賀会 コロナ禍のた
め、ズーム(Zoom)を活用し、利用
者・家族・役員・職員と人数を絞った
かたちで行いました。②四〇周年
記念誌の発行 ③四〇周年記念「ふ
れあい講演会&パネルディスカッショ
ン」の開催 大牟田文化会館小ホール
に、四〇〇人を超える方々にお集

第106号

社会福祉法人
キリスト者奉仕会
大牟田市新勝立町3丁目5番地15
大牟田恵愛園
恵愛ワークセンター
ハーブタツ
ツボボンシ

また、「山の上から地域」との願
いから、法人本部及び大牟田恵愛園
の暮らしの場と重度障がい者の活動
の場の一部を新勝立町に移転して早
六年となりました。今後、大牟田恵
愛園のクリーニング作業部門と恵愛
ワークセンター全体の移転(タオル
製造、パン部門等)を計画しております。
建築価格の高騰により多額の費
用が掛かることが予想されますが、
皆で協力して、是非実現することが
できればと願っております。

最後に私ごとではございますが、
二〇二三年五月の全国社会就労セ
ンター協議会(全国セルフ協)協議員
総会において、全国セルフ協の会長
に就任いたしました。全国セルフ協
とは「障害者の働くこと暮らすこと」
を支援する施設・事業所が加入
する協議会で、一九七七年に結成。
現在は、各都道府県にセルフ協が設
置され、事務局は全国社会福祉協議
会に置かれています。

聖書「あなたがたも聞いているとお
り、「隣人を愛し、敵を憎め」と命じ
られている。しかし、わたしは言つて
おく。敵を愛し、自分を迫害する者
のために祈りなさい。」

(マタイによる福音書五章)

法人の今後の展開について、寄付

を頂いた三池の土地に、重度障がい
者の地域での暮らしの場として、グ
ループホームを建築する予定で入札
を行いましたが、建築価格の高騰に
より予定していた価格を大幅に上
回り、断念せざるを得ませんでした。
今後に向けては、補助金申請等を行
い、出来るだけ早い時期に建築でき
るよう取り組んでいきたいと思って
おります。

野では様々な課題があります。

「障害者権利条約」に批准している
日本に対しての対日審査が行われ、
権利委員会から日本に対しても勧告
が出されました。地域生活への移行
を進めることや権利委員会からの障
害者就労についての一般的意見では
「シェルタードワークショップを速や

かに段階的に廃止」という意見も示
されました。また、近年増え続けてい
る障害者雇用代行ビジネスの台頭、
また来年四月を改定時期として、三
年に一度行われる障害福祉サービス
等報酬改定「就労選択支援事業」の
創設等、たくさんのがあります、と
ても重い役割だと思つております
が、引き受けたからは、「障がい者の
働くこと暮らすこと」の充実に向
け、精一杯取り組んでいきたいと
願っております。



40年の歩みとこれからの法人を見据えて

恵愛ワークセンター
障害者就労・自立支援センターたんぽぽ

施設長 谷山 恵一



去る四月八日(土)、キリスト者奉仕会の法人創立四十周年記念式典と祝賀会が盛会のうちに終了致しました。これまでの四十年間、利用者やご家族をはじめ、関係機関並びに地域の方々など多くの人たちに支えられながら、ここまで歩むことが出来ましたことを、この場を借りて心から感謝申し上げます。

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者とご家族、法人役職員のみにご案内し、総勢二百四十名が大牟田恵愛園に集いました。記念式典では、大牟田市の関好孝市長をはじめ、全国社会就労センター協議会の阿由葉寛会長、日本バプテスト連盟の加藤誠理事長、大牟田市障害者協議会の大場和正事務局長の四名から温かいビデオメッセージを頂戴しました。また、祝賀会では法人役員と各事業所を代表して四名の利用者がお祝いのスピーチを披露しました。「次は五十周年、共に歩んで頑張っていきたい」と手話を使って、そう締め括った利用者の言葉が印象に残っています。利用者の皆さんは自分たちの言葉で、力むことなく、そして誇張することもなく、これまで法人と共に歩んできた自身の思いを的確に伝えてくれました。そして最後は記念動画を見

ながら、これまでの法人の歩みに思いを馳せ、共に喜びを分かち合うことが出来ました。

さて、直近の十年間を振り返ると、法人は様々な事業に取り組んできました。地域での暮らしの場であるグループホームの拡充、ハーツの地域活動支援センターI型の受託、念願であった大牟田恵愛園の入所部門の移転「山の上から地域」への実現、たんぽぽ大牟田中央サテライトオフィスの開設、国立国会図書館デジタル化事業受託のための共同作業場の開設など、暮らしや就労など様々な側面から障がいのある人のニーズに応え支えるための事業を展開してきました。この間、熊本地震や九州北部豪雨といった災害は毎年のように発生し、災害時の備えとして避難対策は大きな課題となりました。また、新型コロナウイルス感染症によって、法人の就労事業である弁当事業やレストラン事業、パン事業やタオル事業などの生産活動の縮小を余儀なくされ、そこで働く利用者の工賃や賃金の原資となる事業収益に大きなインパクトを与えました。更にコロナ禍は施設行事や面会の制限にも繋がり、自由に交流することが出来ない期間を過ごすことになりました。

新型コロナウイルスは五類に位置

付けが変わり、以前の日常に戻りつつあります。が、これからも未知のウイルスや災害など予測出来ない危機について直面するかわかりません。法人各事業所のBCP(事業継続計画)を早急に整備し、これからも利用者が安心安全に生活出来る環境を作ることが必要だと考えています。

日本は少子高齢化社会を迎え、数年前から公費抑制を背景にした全世代型社会保障改革に進んでおり、経営環境はこれから益々厳しくなることが予測されます。また国連の障害者権利条約の批准国として、障害者福祉は人権に焦点を当てた施策に変化するかもしれません。社会のDX化の推進は、法人のデジタル変革に向けての転換期と捉えることが出来ます。

時代が急速に移り変わろうとしても、私たちの理念に搖るぎはありません。法人設立時の定礎は「互いに愛し合いなさい」(ヨハネによる福音書十五章十二節)です。この聖書の御言葉を原点に多様性を大事にし、共に生きる(インクルーシブな)社会を目指す法人であり続けたいと願っています。この思いが、五十年後、六十年後、そして百年後へと引き継がれていくことを願つてやみません。

法人創立四十周年記念

ふれあい講演会

ハーツ 所長 古賀敬之



今年、当法人は多くの方々のご支援、ご協力のもと創立四十周年を迎えることが出来ました。この度、創立四十周年を記念して、この十年間の取り組みを中心とした「四十年記念誌」を作成し、四月八日（土）にはまだ新型コロナを考慮して法人内部で「四十周年式典」を開催しました。そして六月十日（土）には、大牟田市文化会館小ホールで「法人創立四十周年記念ふれあい講演会」を開催しました。法人の理念である「障がいがある人やない人も共に地域社会の中で、自分らしくあたり前に生活していく社会の実現」に向け、地域の方々に理解を広げていくために「ふれあい講演会」を開催してきましたが、今回は久しぶりの開催となりました。

今回の「法人創立四十周年記念ふれあい講演会」は、「だれもが自分らしくありのままに生きていける社会を目指して」をメインテーマに開催しました。第一部では植草学園大学副学長、毎日新聞客員編集委員であり知的障がいのあるお子さんの父親でもある野澤和弘さんによる記念講演、第二部では「大牟田に合理的配慮を広げるために」、「障がい者の働くことを支援」、「手話を言語として広げていくために」

支援、ご協力のもと創立四十周年を迎えることが出来ました。この度、創立四十周年を記念して、この十年間の取り組みを中心とした「四十年記念誌」を作成し、四月八日（土）にはまだ新型コロナを考慮して法人内部で「四十周年式典」を開催しました。そして六月十日（土）には、大牟田市文化会館小ホールで「法人創立四十周年記念ふれあい講演会」を開催しました。法人の理念である「障がいがある人やない人も共に地域社会の中で、自分らしくあたり前に生活していく社会の実現」に向け、地域の方々に理解を広げていくために「ふれあい講演会」を開催してきましたが、今回は久しぶりの開催となりました。

今回の「法人創立四十周年記念ふれあい講演会」は、「だれもが自分らしくありのままに生きていける社会を目指して」をメインテーマに開催しました。第一部では植草学園大学副学長、毎日新聞客員編集委員であり知的障がいのあるお子さんの父親でもある野澤和弘さんによる記念講演、第二部では「大牟田に合理的配慮を広げるために」、「障がい者の働くことを支援」、「手話を言語として広げていくために」

という三つのテーマでそれぞれパネルディスカッションを行い、それぞれに助言者として野澤さんに入ってもらいました。

記念講演では、野澤和弘さんは長く新聞記者をされ障がい者虐待の現場の取材等、現場の取材に長く携われてこられた知見に基づいた分かりやすいお話、また障がいのある息子さんを通じた、当事者の親としての視点からのするどい切り口からのお話しで、とても心に響く講演でした。

パネルディスカッションでは、一つ目の「合理的配慮」については、まず私の方から合理的配慮を考える上で基本的なことを話させていただき、大牟田市障害福祉担当課長の鷹尾課長からはDVDを交えて合理的配慮についての分かりやすい説明をしていただき、大牟田市としての取り組みや今後についてもお話しされました。二つ目の「働く」については、株式会社ヤヨイサンフーズの藤戸さんから自社で七名の障がい者雇用（正社員）をされている現場での取り組みを話され、大牟田市障害者協議会の泉田さんは障がい者が働くことの支援について、様々な支援の仕組みも含めて話していただきました。

誰もが自分らしくありのままに生きていける社会とは、周りの人々が、障がいの特性を理解しその人にとつての必要な配慮を行うことで、誰も排除されたり、生きづらさを感じずにつきていける社会ではないかと思います。特別なことはなく、誰もが人として尊重し合いい、それぞれに必要な配慮や思いやりの心をつなげていくことではないでしょうか。

法人リーダー 養成研修に参加して

大牟田恵愛園 総括責任者 平島 勇貴

二〇二二年度に新たな法人の取り組みとして始まった「法人リーダー養成研修」。

前期三日間、後期三日間、修了式の全七日間で行われます。

私が、法人リーダー養成研修に参加しようと思ったきっかけは、私は人に思いを語るのが苦手で、伝えないといけないので上手く伝えられないもどかしさを長年感じてきました。

もしかしたらこの研修に参加することで、「自分の言葉を持ち、人に思いを伝えることができる人間になる」ことが少しでも出来るかもしれませんとの思いで、参加させてもらうことにしました。

この研修では理事長をはじめとする内部講師と、外部からも講師を招き、それぞれの方の専門分野の講義を受けて、そのことについて考えを深めることなどが出来たり、他事業所へ視察にも行き、キリスト者奉仕会では行つていらない取り組みなども見ることも出来ましたし、実際にその現場で働いている方に質問して、現状、課題やそれにどう取り組んでいるのかも聞くことができ、非常に有意義な時間になりました。

また、各講義のコマの間にはディスカッションがあつたり、お酒を飲みながら交流する場面でも、色々な話をすることができ、日程終了の際は振り返りがあるなど、自分の思いを話す場を提供してもらえたことで、改めて伝えることの難しさを経験しました。

今回、この研修に参加させてもらい、自分の思いを相手に伝えることが少しずつですが出来てきたようになります。

また、もう一つの理由として修了レポートを四千字以上書くことが課題になつており、私自身、自分の思いを文字に起こすことでも重要だと考えていたので、自分にとっての大きなスキルアップにつながるとも考えました。

修了レポートは、その時に給食部に所属していたので、施設給食の在り方をテーマに書きました。研修の最初のころはなかなかレポート作成が進まず、全然言葉が出てきませんでしたが、研修で学んだり研修メンバーと話すことを続けたおかげで、今まで見えていなかつたことも少しずつ目を向けられるようになつたり、物事の捉え方を少し違う角度で見れてきたりと、自分自身の考え方にも変化が生まれてきましたように感じます。

色々なアドバイスをもらいながら書き上げることができました。

今後、日常業務の中で、この研修で学んだことを活かし、また、色々な研修に参加して学びながら、自分が言葉を持ち、人に思いを伝えられる人間へと成長していきたいと思います。

2022年度 法人常勤職員 研修会の報告

法人研修委員 富安 妙子

二〇二二年度の法人常勤職員研修会は「ダイバーシティ(多様性)の尊重と人権」をテーマに開催しました。まず、研修会前半は、二〇二三年四月に法人四十周年を迎える事もあり、法人のこれまでを振り返り、法人の今後について思うこと」をテーマに障がい当事者で元大牟田恵愛園入所利用者の有松由里子さん、元大牟田恵愛園職員で現在法人評議員をしていただいている宮崎哲博さん、長年法人で働かれている叶義文理事長の三名で当時の大牟田恵愛園の生活状況や就労状況地域での自立生活への取り組みについて利用者の立場、職員の立場で話がありました。障がい当事者の有松さんからは施設入所から地域でひとり暮らしされる時の思い(かなり不安もあつたそうです)、ご家族の反対がありながら、実際に地域生活

をされている障がい当事者の方の話を聞いたり、職員をはじめ多くの方と一緒に自立生活に取りくまれ現在に至つてあることの話がありました。新しい職員の方も多く、約四十年前の入所施設の話を聞き、がりはとても大事なことだと思いました。新しく職員の方も多く、約四十年前の入所施設の話を聞き、ルールの厳しさ、自由に選択することができない事等を聞いてびっくりしていました。この歴史がある間に成長していく等の感想がいました。

法人の歴史を振り返った後は、「これまでの歩みと今後に向けて」をテーマに①就労支援、②生活支援についてパネルディスカッションを行いました。各事業所よりテーマに沿つて発題を行い、これから事業所についてディスカッションを行いました。現在の課題もそれぞれありますが、クリアしながら、十年、二十年後も障がいのある人を中心に行いました。

心にいろいろな事にとりくんでいきたいと思います。



祝会の流れは、第一部がクリスマス・ス礼拜、二〇二三年度はバプテスト国分キリスト教会のマウマウタン牧師に「その名はインマヌエル」というテーマでメッセージをいただきました。マウマウタン牧師は鹿児島の教会からのオンラインでした
が、とてもわかりやすくお話しいただき、会場の皆さんと一緒にお祝いをすることことができたと感じました。

第二部については、bingo大会など、利用者さんが楽しめるゲームを実行委員で企画させていただきました。恒例のスライドショーについ

二〇二二年十二月十七日(土)法人のクリスマス祝会がおこなわれました。

クリスマス祝会は法人で大事にしている行事の一つです。法人内部(利用者並びに職員)を中心に主イエス・キリストの御誕降を共にお祝いすることを目的としています。今回のクリスマス祝会も新型コロナウイルスの感染対策を引き続き行いながら開催しました。通所の方と入所の方は別々の会場でオンライン形式での開催でした。



ても、楽しみにされている利用者の方をおられ、みなさんの普段の様子がわかるような写真が次々に流れ、微笑ましく見ることができました。今年度に入り、新型コロナウイルスが五類へ移行し、今まで制限されていたことが緩和されておりますが、重症化のリスクがなくなつたわけではありません。予防できるところは、皆さんに協力をもとめながら、「一〇二三年度もみなさんと共にクリスマス祝会を開催できることを願っています。

法人クリスマス祝会の報告

法人行事委員 沖中久美子



共に生きる出会いを求めて

第37回 恵愛まつり

日時

2023年10月21日(土)
10:00~15:00

**抽選券付き前売りチケット
2,000円<金券2,200円>**

絶賛販売中!!

※バザーの収益金は大牟田恵愛園(今山)、恵愛ワークセンターの地域移転、重度の障がいのある方のグループホーム建設に活用させていただきます。

ステージイベント

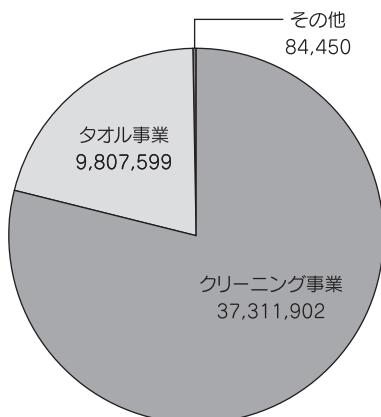
- ➡ BEAT JAMによるダンス
 - ➡ 真心(ちむぐくる)による
エイサー
 - ➡ お楽しみ大抽選会
(特賞:別府杉乃井ホテルペア宿泊券)
 - ➡ キッチンカーがやってくる!!

2022年度 社会福祉法人キリスト者奉仕会 就労事業実績

大牟田恵愛園

総事業収益
47,203,951円
(前年度比3.4%増)

B型平均賃金月額
54,664円
(前年度比3.3%減)

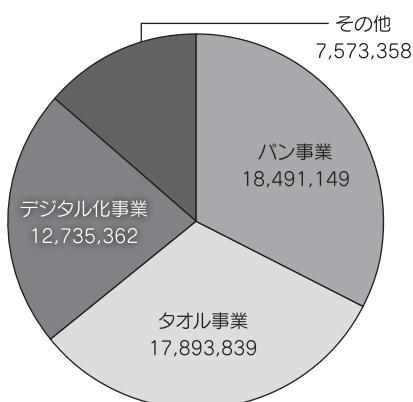


恵愛ワークセンター

総事業収益
56,693,708円
(前年度比24.3%増)

A型平均賃金月額
112,691円
(前年度比17.7%増)

B型平均工賃月額
37,800円
(前年度比19.3%増)

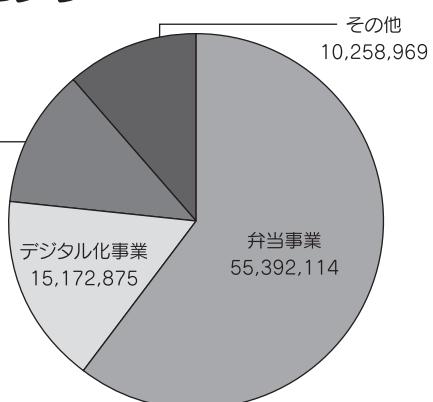


障害者就労・自立支援センター たんぽぽ

総事業収益
91,886,598円
(前年度比22.1%増)

A型平均賃金月額
121,290円
(前年度比8.8%増)

B型平均工賃月額
48,612円
(前年度比19.3%増)



就労移行支援・就労定着支援実績

就職者数	7名
職場実習斡旋件数	24名
定着支援件数	374名



2022年度 社会福祉法人キリスト者奉仕会 決算報告

法人単位資金収支計算書

(自)令和4年4月1日(至)令和5年3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	介護保険事業収入	15,394,699	15,682,332	△287,633	
	就労支援事業収入	194,322,078	190,412,226	3,909,852	
	障害福祉サービス等事業収入	761,504,014	768,513,861	△7,009,847	
	事業収入	845,000	845,000	0	
	経常経費寄附金収入	2,370,000	2,388,118	△18,118	
	受取利息配当金収入	7,789	10,247	△2,458	
	その他の収入	37,753,644	34,543,843	3,209,801	
事業活動収入計(1)		1,012,197,224	1,012,395,627	△198,403	
支出	人件費支出	524,503,262	523,829,558	973,704	
	事業費支出	101,220,045	89,819,563	11,400,482	
	事務費支出	71,252,343	63,864,013	7,388,330	
	就労支援事業支出	184,787,120	183,402,424	1,384,696	
	支払利息支出	1,191,108	1,191,108	0	
	その他の支出	2,400	380,614	△378,214	
	事業活動支出計(2)	882,956,278	862,187,280	20,768,998	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		129,240,946	150,208,347	△20,967,401	
施設整備等による収支	施設整備等収入計(4)		0	0	
	設備資金借入金元金償還支出	18,168,000	18,168,000	0	
	固定資産取得支出	27,456,250	9,847,960	17,608,290	
	固定資産売却・廃棄支出	1		1	
	施設整備等支出計(5)	45,624,251	28,015,960	17,608,291	
	施設整備等資金取支差額(6)=(4)-(5)	△45,624,251	△28,015,960	△17,608,291	
	積立資産取崩収入	4,960,000	2,220,000	2,740,000	
その他の活動による収支	その他の活動による収入	564,000	628,000	△64,000	
	その他の活動収入計(7)	5,524,000	2,848,000	2,676,000	
	積立資産支出	28,523,400	50,613,400	△22,090,000	
	その他の活動による支出	487,500	547,500	△60,000	
	その他の活動支出計(8)	29,010,900	51,160,900	△22,150,000	
	その他の活動資金取支差額(9)=(7)-(8)	△23,486,900	△48,312,900	24,826,000	
	予備費支出(10)		-		
当期資金取支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		60,129,795	73,879,487	△13,749,692	
前期末支払資金残高(12)		698,401,939	695,690,565	2,711,374	
当期末支払資金残高(11)+(12)		758,531,734	769,570,052	△11,038,318	

法人単位事業活動計算書

(自)令和4年4月1日(至)令和5年3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	介護保険事業収益	15,682,332	17,075,841	△1,393,509
	就労支援事業収益	190,412,226	160,914,653	29,497,573
	障害福祉サービス等事業収益	768,513,861	742,429,252	26,084,609
	事業収益	845,000	25,000	820,000
	経常経費寄附金収益	2,388,118	2,451,952	△63,834
	サービス活動収益計(1)	977,841,537	922,896,698	54,944,839
	人件費	528,822,958	463,634,814	65,188,144
サービス活動外増減の部	事業費	89,819,563	67,351,003	22,468,560
	事務費	63,864,013	58,623,101	5,240,912
	就労支援事業費用	187,850,858	167,504,213	20,346,645
	減価償却費	67,259,040	63,755,959	3,503,081
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△17,511,349	△16,850,022	△661,327
	徴収不能額(事業未収金)		237,000	△237,000
	サービス活動費用計(2)	920,105,083	804,256,068	115,849,015
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		57,736,454	118,640,630	△60,904,176
サービス活動外増減の部	受取利息配当金収益	10,247	9,091	1,156
	その他のサービス活動外収益	34,543,843	10,018,607	24,525,236
	サービス活動外収益計(4)	34,554,090	10,027,698	24,526,392
	支払利息	1,191,108	1,274,773	△83,665
	その他のサービス活動外費用	380,614	134,470	246,144
	サービス活動外費用計(5)	1,571,722	1,409,243	162,479
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	32,982,368	8,618,455	24,363,913
経常増減差額(7)=(3)+(6)		90,718,822	127,259,085	△36,540,263
特別増減の部	施設整備等補助金収益	0	30,600,000	△30,600,000
	固定資産受贈額		11,203,197	△11,203,197
	固定資産売却益		54,949	△54,949
	特別収益計(8)	0	41,858,146	△41,858,146
	基本金組入額		10,804,197	△10,804,197
	固定資産売却損・処分損	3	30,516	△30,513
	国庫補助金等特別積立金積立額		30,600,000	△30,600,000
特別費用計(9)		3	41,434,713	△41,434,710
特別増減差額(10)=(8)-(9)		△3	423,433	△423,436
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		90,718,819	127,682,518	△36,963,699
前期繰越活動増減差額(12)		1,409,085,929	1,316,688,411	92,397,518
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		1,499,804,748	1,444,370,929	55,433,819
基本金取崩額(14)				
その他の積立金取崩額(15)		1,700,000	715,000	985,000
その他の積立金額立額(16)		44,800,000	36,000,000	8,800,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		1,456,704,748	1,409,085,929	47,618,819
繰越活動増減差額の部				

法人単位貸借対照表

令和5年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部		
	当年度末	前年度末	増減	
流动資産	874,243,750	797,065,362	77,178,388	流动負債
現金預金	672,299,451	600,559,253	71,740,198	事業未払金
事業未収金	133,517,733	137,801,203	△4,283,470	1年以内返済予定設備資金借入金
売掛金	25,320,107	8,979,781	16,340,326	預り金
立替金	4,702,477	29,489,231	△24,786,754	職員預り金
前払金	12,408,567	5,175,657	7,232,910	前受金
仮払金	25,995,415	15,060,237	10,935,178	仮受金
固定資産	1,670,862,607	1,684,654,806	△13,792,199	固定負債
基本財産	1,316,506,126	1,366,402,709	△50,906,583	設備資金借入金
土地	319,108,546	319,108,546	0	退職給付引当金
建物	831,744,784	862,594,652	△30,849,868	敷金・保証金等預り金
建物附属設備	126,327,900	140,648,721	△14,320,821	
構築物	39,324,896	44,050,790	△4,725,894	
その他の固定資産	354,356,481	318,252,097	36,104,384	
土地	280,000	280,000	0	負債の部合計
建物	14,063,614	13,176,778	886,836	純資産の部
建物附属設備	30,045,290	32,468,318	△2,423,028	基本金
構築物	6,332,598	7,112,716	△780,118	第1号基本金
機械及び装置	9,675,724	16,033,672	△6,357,948	第3号基本金
車輢運搬具	8,814,194	7,890,440	923,754	国庫補助金等特別積立金
器具及び備品	17,636,155	22,012,167	△4,376,012	その他の積立金
権利	912,168	912,168	0	人件費積立金
ソフトウェア	514,800	756,800	△242,000	修繕積立金
退職給付引当資産	19,973,360	14,679,960	5,293,400	備品等購入積立金
人件費積立資産	5,000,000	5,000,000	0	施設・設備整備積立金
修繕積立資産	68,091,210	58,091,210	10,000,000	工賃変動積立金
備品等購入積立資産	50,760,000	40,760,000	10,000,000	設備等整備積立金
施設整備等積立資産	88,000,000	73,000,000	15,000,000	次期繰越活動増減差額
工賃変動積立資産	7,114,600	2,614,600	4,500,000	(うち当期活動増減差額)
設備等整備積立資産	26,863,268	23,263,268	3,600,000	1,456,704,748
差入保証金	279,500	200,000	79,500	90,718,819
資産の部合計	2,545,106,357	2,481,720,168	63,386,189	純資産の部合計
				負債及び純資産の部合計
				2,545,106,357
				2,481,720,168
				63,386,189

大牟田恵愛園

障がい者施設で働く
看護師として

医療部責任者代行 本吉 洋子

「片麻痺なのに一人暮らしできる
わけないやん」「視力障がいがあるけ
ん退院しても施設やね」

私は「介護」と「病院」の看護師として働いてきました。上記のやりとりは障がいの方々が退院される際、自宅に帰りたい施設に入りたくないと希望があつても当たり前に交わされてきた会話ですし、私もそう思っていました。

四年前に恵愛園に就職した頃、どうして糖尿病があるのにお菓子の制限がないのだろう、高血圧で糖尿もあるのに夜中にカツブ麺を食べることに何も言わないのだろう、喫煙や飲酒をやめなければ足を切断することになるといわれているのに制限しないんだろう、たぶん病院から移ってきた看護師なら普通に疑問に思つたことと 思います。

もしれませんが、冒頭で述べた言葉は全く配慮に欠け、その人がその人らしく生きていくことを奪う言葉であり、「そうすることしかできないんだよ、そのほうがその人にとつてベストなんだよ」当たり前と決めつけて何にも思つていなかつたんだと気づかされました。

ここ恵愛園は利用者さんかその方の思いや希望、自分で自分の生き方を決めることが最も大切にしており、関係する部署が協力し合うことで、自己実現の達成を可能にさせていけるところです。私も看護師として、全てに沿うことが無理だとしても、メリットばかりでなくデメリットも含めての情報提供を行つたり、選択肢をたくさん提案することで利用者さんが「その人らしくかつ健康」を目指して過ごせるよう努めています。

また、園での最新の動きとしまして、入院後、口から食べ物を食べられなくなくなつてしまつた場合、胃に直接栄養剤を注入する「胃ろう」を増設される方がいらっしゃいます。すると、今まででは休日や夜間にその処置をする者がおらず園に戻る選択肢がありました。この七月より医療者以外の職員が研修を行い、事業所が県に登録を認可されることで受け入れができるようになり、恵愛園で長く暮らした利用者さんにとっては自宅(園)に帰れるよう

今日の給食はなんだろう

給食部副責任者
大里
奏

になりました。利用者さんの「『うしろ』が実現できたり、自己選択の幅が広がることになればと期待しているところです。

前より嘸下食に着目し、ミキサー食の方が何を食べているのかわかるよう、形がある食事が良いのではとう発想からムース食の導入を行いました。

昨年度は食事が美味しくなるよう様々な取り組みを行いました。毎月の献立を魅力的にする為に、職員数人で人気献立の厳選を行い、献立に導入しました。年に二回行われる嗜好調査で利用者から頂いた意見も毎回集計し、給食部会で検討を行っています。また、給食を作った後には既存の献立をより美味しく提供する為に調理員、栄養士で意見交換を行うことも日常的に行われています。機械的な部分ではフライヤーの導入によって効率的かつ、ムラなく揚げ物が出来上がるようになります。昨今、食材費の高騰や、人手不足等給食部は課題も多くあります。が、よい品質の給食を提供し続けるために日々努力しています。

多くの人がそうであるように食事は暮らしの中で大きな意味を持つて います。単にお腹を満たす身体的健康だけでなく、何を食べるか、だれと、いつ食べるかといういくつかの要因によつて精神的健康にも大きな影響をもたらせるものだと思います。給食部一同、今調理している食事が 日々の楽しみの一つ、生きがいの一つであるという意識をもつて給食の提供を心がけていきたいです。

障害者就労・自立支援センター

「たんぽぽ」

二〇二三年度 たんぽぽの 事業展開について

副施設長 沖中久美子

二〇二三年度は法人として創立四十周年を迎えることのできた年となります。年度初めの四月に、創立記念事業として、式典や祝賀会をおこない、六月には地域の皆さんに合理的な配慮の理解を深めていただき、「ふれあい講演会」もおこないました。このような記念となる年にたんぽぼとしても、今まで以上により良い支援ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

今年度のたんぽぼは、障がい福祉サービスの就労継続支援A型、B型、就労移行支援、就労定着支援を継続して運営しています。また、地域交流センターたんぽぼも変わらなく運営しています。就労継続支援事業においては、昨年度から、所得保障の拡大の取り組みとして、大きな事業に参加しています。機関紙においても、何度も

ご報告させていただいている「国立国会図書館」のデジタル化作業に取り組んでいます。たんぽぼとしては、大牟田市の不知火町にあります「大牟田中央サテライトオフィス」内において、共同作業場として、大牟田市内や近郊の就労継続支援A型やB型の事業所のみなさんにも施設外就労として一緒に作業に取り組んでいただいています。スター

トしたばかりの時期は、利用者さんもスタッフも新たな作業になれるため手探りの中、必死に納期に間に合うよう、またミスが許されない現場の中、何とか、みなさんのおかげで納期に間に合い、今年度も

が二〇二一年度から二〇二二年度は月額約八千円ほど上がり、四万八千円という結果につながっています。今年度も各事業の売り上げを伸ばすための工夫や努力を利用者さんと共に取り組みたいと考えています。

就労移行支援については、訓練内容の充実や職場実習の充実をはかり、新たな仕事にもチャレンジすることができます。

また、その作業場では、障がいのあるなしにかかわらず、多くの方々に参加してもらい、受注を完了することができました。昨年度、デジタル化作業に携わっていただいた多くの方が、また次の機会があれば仕事をやりたいと大変意欲的なお声もいただいております。

今回のデジタル化事業についても、障がいのある方や働きづらさを抱えている方の所得保障が目的とされています。障がいがあるなしにかかわらず、就労支援事業にも取り組んでいます。今年度も継続しておこなっています。利用者や相談見学者も増えている状況です。

たんぽぼは、障がい福祉サービスだけではなく、地域に開かれた施設を目指し、障がいのあるなしに関わらず、地域の中で、自分らしくあたり前に生活していく社会の実現を目指し活動する拠点として、法人の理念のもと、利用者のみなさまと共に今年度も活動していきたいと思っています。



ハーツ

ヘルパーステーション ハーツの新しい体制

事業責任者 鶴田 優子

今年度ヘルパーステーションで初めての異動というものを経験しました。理由は、若返りを図り、今後も事業継続していく事と地域支援ということでつくしんば（グループホーム）との連携をしつかり取っていくことでした。

今まで移動や同行援護通院などの支援はサービス提供責任者Yさんにぶら下がっていた私たちが、その要のサ責が異動することで、いろんな不安がありました。サ責のその重責を負わなければならぬJさんは二種免許の取得、同行援護の研修等ハーツに異動されてからほぼ毎日を資格習得に費やされていたが、無事に七月よりサービス提供責任者になられ今後のぶら下がり業務も継続出来るようになりました。

事務も前職員が不在の中、新しく来て下さった二人は、踏ん張って下さっている。支援のNさんも自分の仕事で忙しい中教えに来て下さって感謝しています。多くのみなさんが事業所が成り立つていることを再認識しています。

今年度ヘルパーステーションで初めての異動というものを経験しました。理由は、若返りを図り、今後も事業継続していく事と地域支援ということでつくしんば（グループホーム）との連携をしつかり取っていくことでした。

ガイドヘルパーとは、ただ単に車に乗せて目的地まで連れていくだけの仕事ではなくその人の状態や今の状況を把握しておかないといけません。例えば病院受診で先生から質問されても自分で答えることが出来ない利用者にはヘルパーが答えなければならないからです。どんな薬を飲んでいるのか日常生活の様子はどんなかなど細かく把握する必要があり、それこそヘルパーとしての専門性も問われるところであります。現在はヘルパーの性格や動きなどを見ながらホームやガイドを割り当てていくのですが、今後は車の運転に関しては年齢制限を設けたり簡単な運転講習など必要になつてくるかもしれません。

ヘルパーと毎週、買い物に行くのを楽しみにさせていたり、行事に参加するためにガイドヘルパーを利用したりと

数年前よりヘルパーが高齢化していくのかと悩んでいる間に、利用者も高齢化、重度化が進み、施設に入つたり入院されたりして同じように人数が減ってきており、結果、今の少ないヘルパーの人数でも何とかやれている状態です。今後の課題はホームというよりも外の支援のガイドヘルパーをどうするのかが最大の問題です。ホームの仕事はできるが車の運転に関しては不安を感じる方がいて、現実にホームには入るがガイドは難しいという人も増えてきました。

つくしんばへ やつて来た新参者

事業責任者 吉富 富貴

二〇〇一年六月登録ヘルパーとしてハーツに所属し、職員になり早二十二年が経ち、まさかの異動。事業責任者としてつくしんばへやつてきた。

二十二年間、地域で家族と一緒に暮らす障がい者、一人で暮らす障がい者、様々な方達の支援を行いながら、若輩者だった私は随分と色々な事を人として教えて貰つた。知恵、言葉、習慣、考え方、一人一人違つた生き方に携わりながら言葉にならない思いや気持ちをたくさん心で肌で感じ味わつてきた。

「さあ、どうしようか? どうやって毎日楽しく仕事していこうか?」とモチベーションを上げつくしんばへやつてきた。が、事務所内で聞く会話は自分の頭上で行き交っていた。自分の居場所

今後も利用者にとつては必要な事を無くすことなく継続して行くためにはまだ課題も多いのですが新しいメンバーでしつかり話し合いを重ね継続した支援を行えるように考えたいと思います。

を探りながら、分からぬ事は手を伸ばし頭上の会話を一つ一つ掴んでいく日々が続く。顔を上げ先ずは皆に自分を知つて貰う。少しづつ、現場にも入り利用者、世話人、支援員とも関りをもちながら、前に前にちよつとずつではあるが進んでいると…思う。(思いたい)

グループホームで生活をしている利用者、そこに関わる世話人、支援員。全ての人が笑顔で楽しく大変な事もあるけどやりがいを持つて仕事が出来る様になる為に、私は何をしたらいいのだろうか? と模索している。

いろんな人達が関り、利用者一人一人の生活の支援を行いながら、いろんな考え方や意見もあって当然だとと思う。泣いたり、悩んだり、悔しかつたりする事も数多くあると思うが、利用者も含め皆で一緒に考え方一人一人の生活を支えていけたらと思っている。

一日一日スケジュール的には繁忙ではなかつたはずなのに、バタバタとあつという間に時が過ぎてしまふ事が、まあ少なくはない。それが生きている支援をしている事なのかなと思う。

地域で暮らす方達の支援をしながら二十二年間で培つてきたもの、利用者から学んだたくさんの事を駄駄にして、今までと同じ様に物事を問題ではなく機会だと、チャンスなんだと思いながら利用者と向き合つて一日がかけがえのない尊い日だとう心で手を抜かず力を抜いていこうと思つてゐる。

ご協力ありがとうございました

青野 太潮、青山 好子・信一、赤塚 バ
テスト教会、朝枝 育美、阿津坂
秀人、荒木 信博、伊集院幼稚園、医
療法人 CLS すがはら 医療法人
友永医院 岩本 留理子、植木 善昭、
浦田 英治・恵子、江口 信三、エサキ
サウンドサービス、大井バプテスト
教会 女性会福祉グループ、大久保
隆生、太田 勝利、大西 克子、大牟田
市社会福祉法人地域公益活動協議
会、大牟田市障害者協議会、大牟田
友の会、大牟田バプテスト教会、大
牟田フレンドシップキリスト教会
会、大牟田防災工業株、大牟田めぐみ教
会、岡田 政明、沖中 久美子、奥園 千
万喜、奥野 修史、奥野 陽子、学校法
人大牟田バプテスト学園光の子
幼稚園、学校法人 金沢めぐみ幼稚
園、学校法人 西南女学院、桂 君代、
加藤 郁雄、叶 義文、株式会社 幸和、
加來 德子、企救バプテスト教会、北
岡 敏郎、木原 聖子、くずめ よし、く
ぬぎ薬局、栗山 高子、郡山コスモス
通り教会、古賀 香織、古賀 勝子、古
賀 敬之、小嶋 陽、五嶋米店、小宮 田
鶴子、境 美智子、品川バプテスト教
会、社会福祉法人 バプテストめぐ
み会北白川いづみ保育園、宗教法人

富野バプテスト教会、城野 俊行、所
野 有美子、聖学院小学校 母の会、西
南学院中学校 高等学校 西南学院
バプテスト教会、西南幼稚園、瀬戸
紗希、瀬戸 口玲子、瀬戸 口早苗、セブ
ンイレブン大牟田銀水店、高石律
子、高木 健裕、高橋 良子、田中 晶
矩、田中 広美、田 中文人、谷山 恵
一、谷山 典史、谷山 雅子、筑紫野南
キリスト教会、千葉バプテスト教
会、塚田 正昭、塚本 二作、堤嘉宏、
典子、津村 龍彦、東京北キリスト教
会、徳永 浩子、鳥栖キリスト教会、
富重 忠行、富安 妙子、ナオミ愛児
園、中島 靖、永沼 美和子、永野 はる
み、ナゴミグレースチャーチ、日本
キリスト教会 久留米教会、日本バ
プテスト伊集院キリスト教会、日本
バプテスト大阪教会、日本バプテスト
ト鹿児島基督教會、日本バプテスト
春日原キリスト教会、日本バプテス
ト小倉キリスト教会、日本バプテス
ト女性連合、日本バプテスト仙台基
督教会、日本バプテスト東熊本キリ
スト教会、日本バプテスト四日市教
会、日本バプテスト連盟広島西キ
リスト教会、日本バプテスト連盟
ト連盟諫早キリスト教会、日本バ
プテスト連盟豊橋キリスト教会、

日本バプテスト連盟人吉キリスト
教会、日本バプテスト連盟南名古
屋キリスト教会、日本バプテスト連
盟 大村古賀島キリスト教会、野中
宏樹、野中 保司、バプテスト東福岡
教会、東福岡幼稚園 久多見 美和
子、日野神明キリスト教会、平尾バ
プテスト教会、平松 久也、福田 真
治、福田 真由美、船原 基近、府本 幼
稚園、マウマウタン、眞柄 光久、松
尾 富揚、松延 昌子、三木 洋子、三島
バプテスト教会、港南めぐみキリスト
教会、宮崎 哲博、宮崎キリスト教
会女性会、村上 裕彦、森崎 覚、森島
省三、八代バプテスト伝道所、山下
和幸、有限会社 コーショウウクリー
ン、芳川 勝、若松バプテスト教会、
綿谷 賴子、(株)西日本医療センター、
(株)プロインテック



※順不同・敬称略

恵愛友の会会員募集!!

「障害者福祉」の益々の充実を願いつつ、ともに歩み支えていただける会員を募集しております。

一般会員	一口	500円/月
特別会員	一口	1,000円/月
賛助会員	一口	300円/月
団体会員	一口	10,000円/月

※一人でも多くの人に会員になっていただきたいと願っております。どうぞよろしくお願い致します。

献金申込送金先 社会福祉法人 キリスト者奉仕会

〒836-0895
福岡県大牟田市新勝立町3丁目5番地15
大牟田恵愛園 0944-51-8750

《銀行振込》 福岡銀行 大牟田支店
普通 2512469

《郵便振込》 郵便振替 01780-3-38380

※この献金は福祉事業活動のために活用させていただきます
※郵便振込用紙を入れていますので、献金される方はご利用下さい。

二〇二二年十月十六日(土)
二〇二三年六月三十日(日)